

当院に救急搬送された小児痙攣患者の搬送時間および転帰に関する検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、当院に救急搬送されたけいれん患者さんの症状および搬送時間について調べています。けいれんはできるだけ早く止めることが重要ですが、現状の日本では救命士による抗痙攣薬の投与は認可されていません。また、医療の集約化などにより地域によっては地元の病院ではなく遠方の病院へやむなく搬送するといったこともあると思います。本研究では、当院に搬送された15歳以下のけいれん患者さんの搬送時間と転帰を調べることにより、今後の地域の救急体制の在り方について検討し、改善につなげることを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2020年1月から、2024年12月までの間に、救急外来に痙攣発作を主訴に受診された方。

◆研究に使用される試料◆

患者さんに関する情報：年齢、性別、背景疾患、痙攣の既往、血圧、心拍数、呼吸数、体温、SpO2、意識状態

搬送中の情報：救急隊への入電時間、救急隊の接触時間、病院への到着時間、搬送中の痙攣の有無、酸素投与の有無

来院後の処置に関する情報：到着時の痙攣の有無、来院後の痙攣再発の有無、最も長い痙攣時間、痙攣発作の回数、止痙攣のための抗痙攣薬の使用の有無とその種類、投与方法、気管挿管の有無、入院の有無、ICU入院の有無、死亡の有無、最終診断名

◆情報の研究利用開始日◆

2026年2月1日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録および救急搬送記録を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

救急科 研究責任者 漆谷 成悟

E-mail : kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※ 【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
(他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。)
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明